

《私の一曲》

いつかを信じて

加茂 進

♪街の唄が聴こえてきて…のフレーズで始まる名曲をご存知ですか？いきなり名曲と書いてしまいました。本当かどうか原稿を書きながら繰り返し何十回と聴いてみました。やっぱり名曲でした。佐野元春の「SOMEDAY」という曲ですが、実は先日家族でカラオケに行く機会があり、そこでみんなのリクエストで歌うことになりました。これが4歳と6歳の子供にどういうわけかヒットし、それからしばらくはところ構わず♪ちかうよ、サムデイ…などと大きな声で歌っていました。保育園なんかで歌われると自分の年代がばれてしまいそうでちょっと気恥ずかしくなりましたが、世代を問わず普遍性を備えた名曲なのだと一人悦に入った心地で子供たちの唄を聴いていました。

歌詞が好きで♪いつかは誰でも 愛の謎が解けて一人きりじゃいられなくなる ステキなことはステキだと無邪気に笑える心が好きさ、なんていいじゃありませんか？ほかに♪窓辺にもたれ 夢のひとつひとつを 消してゆくのはつらいけど 若すぎて何だかわからなかったことが リアルに感じてしまった頃の、と青春のほろ苦さを歌いながら♪だから

もう一度あきらめなごら まじらなごら かもめその時まじ SOMEDAY と希望をこめて歌います。

佐野元春曰く、「ポップソングは時代の表現であり、時代を超えたポエトリー。」なるほど、音楽としての「詞」であると同時に、言葉としての「詩」であることこそ私が佐野元春を好きな理由なのかもしれない。それと「SOMEDAY」(いつか)という言葉にも惹かれるものがあります。やりたいことがあってもなかなかできない。そんなとき「いつかやれるさ」と思うだけで楽になれるものです。希望の言葉であり、救いの言葉なのです。これまで利用者には辛い時、苦しい時にずいぶん助けてもらった気がします。恩返ししなくてはと思いながらも、恩は積もるばかりでなかなか返せない。いつか、いつか、と言い訳するのが関の山。これは悪い例。それでもいつかは恩返ししたいというのが私の想いです。まずは陽気のいい日は庭でお食事、ここ数年すばるで定着してきた演奏会。こんなある日常を創っていきけるといいなと思います。子供たちがまたカラオケに行つて、今度は一緒に「SOMEDAY」を歌いたいと言っているそうです。私にとって嬉しい春のお誘い。待てば海路の日和あり、といえます。いつか、誰のものにも必ず春は来るのです。♪信じる心いつまでも SOMEDAY。 (つばる 介護員)

	3月	4月
ショートステイ	70人 (295日)	66人 (235日)
日中一時支援	6人 (13日)	4人 (18日)
ボランティア	19人 (4グループ)	11人 (2グループ)
実習	1人 (1グループ)	3人 (3グループ)

夏期デイケアスタッフ募集

学校に通っている重症心身障害児に夏休みを活動的に過ごす場を提供するプログラムです。身辺介護と遊びの支援が中心になります。スタッフ対利用者比1対1を予定しています。お手伝いして下さる方を求めています。

期 間 8月2日～8月27日 (土日は休業)

募集人員 25名

応募資格

- ・障害児療育に理解と関心のある社会人
- ・福祉／看護／介護／保育等専攻の学生

面接随時実施いたします

7月31日(土)10時

オリエンテーション実施

勤務時間 9時～17時

時 給 八五〇円以上

(経験に応じて)

交通費 (当院規定に準ずる)

連絡先 聖隷おおぞら療育センター  
☎〇五三-四三七一-四六七

編集後記

私事ですが、先日、次男が小学校に入学しました。入学式といえればおめかしした子供達の姿が思い浮かぶと思いますが、我が家で大変なことがあります。

何の用意をする気もなく、卒園式を終えた頃、長男のお下がりを着せてみると「きつい。」の一言。長男も決して小さくはなかったのに、次男は更に大きく育っていました。何とかファスナーを上げてはみたものの、ウエスト部分にお腹が乗っかかりかなり苦しそう。1日だけだし、我慢してもらおうかと思つた瞬間：脇が破れました。仕方なくその日のうちにズボンを購入。「上下揃った方がいいかな、一生に一度のことだから。」と悩んだ末、数日後スーツを新調しました。

入学式当日、汚さないようにと出掛ける10分前に着替え、記念撮影。「本人に合わせたスーツは良いなあ、もう1枚写真を撮ろう。」と思つたとき：転びました。コンクリートに擦り、ズボンの膝が破けました。あまりのことに声も出ず、時間ばかりが過ぎていきました。結局、直すことも隠すこともできず破けたズボンで入学式に臨みました。

「転んじゃったんだよね。」ひびを気にしていた次男は周囲の人に説明していました。きっと一生忘れない思い出になったと思います。本当に印象深い入学式の出来事でした。(R)